

伝説の書・待望の刊行！

屋久島維管束植物総覧

A comprehensive overview flora of Yaku-Island as the Northern Ryukyus

編・著 青山潤三 Aoyama Junzo

協力 鹿児島大学総合研究博物館 田金秀一郎 Tagane Shuichiro

2026年
7月刊行
予定

■本書を推薦します

金谷整一 (森林総合研究所)

久山 敦 (咲くやこの花館元館長・ナチュラリスト)

鈴木英治 (鹿児島大学名誉教授)

邑田 仁 (東京大学名誉教授 元・日本植物分類学会会長)

横田昌嗣 (琉球大学名誉教授)

古賀頭司 (屋久島公認ガイド・植物観察家)

柴 嘉亮 (恵命堂代表取締役社長)

杉下智彦 (屋久島尾之間診療所所長)

手塚賢至 (屋久島照葉樹林ネットワーク代表)

山下浩一郎 (南日本放送報道制作局次長)



世界自然遺産・屋久島。

この小さい島に、日本の植物の1/3に近い1800種類の植物が生育する。まさに生物多様性の宝庫である。50種類以上の固有種、今も次々と新種が発見される。60年にわたって日本各地、中国、台湾を踏査した著者が、屋久島の植物を総覧する。

図書出版 南方新社

〒892-0873 鹿児島市下田町292-1 <https://www.nanpou.com>
tel 099-248-5455 fax 099-248-5457 mail info@nanpou.com

刊行にあたって —屋久島ぬきに日本の植物は語れない—

屋久島は世界自然遺産に日本で初めて登録されたことでも分かるように、生物多様性の宝庫である。日本の面積の1/750の屋久島に、日本の植物の1/3に近い約1800種類が生育している。

いわゆる固有種(分類群)が多いことも屋久島の特徴である。だが、固有という概念は、他との関連性に於いて成り立つものであり、他とどのような関係性を有したうえでの固有なのか、俯瞰的に探っていかなければならない。

屋久島の植物相の魅力は、それぞれの種の、他者(他地域産の集団や姉妹種)との関係性を探ることにより導き出せる。本書は、内に向かっての細見ではなく、外からの俯瞰である。島のみでなく、周辺諸島、日本本土、琉球、中国大陸などの東アジア、ひいては地球の中での位置づけを探りたい。

なかでも本書は、「北琉球としての屋久島」という視点に重きを置いた。屋久島は、通常「日本列島の南端」としての視点のみで捉えられがちだが、「琉球弧」の北端であることも、確かなのである。

日本列島や琉球弧が形成された何百万年、何千万年の地史的歴史の中で、屋久島と他の島々(あるいは日本本土や大陸)との間に、重層的な、意外性に富んだ、様々な関係性が浮かび上がってくる。そのような視点から改めて屋久島の固有植物たちの由来を探っていくと、むしろ低地帯に、奄美など中琉球と同レベルの、より古い地質時代に成立し、現在まで生き永らえている種が存在していることが分かる。また高地帯に於いても、単に隔離され環境に適応し特化した、とする解釈では説明し切れない場合が多い。

本書は、その探求のベースをなすべく、屋久島から記録のある全ての種について言及し、出来る範囲で国外産を含む近縁種を併記紹介した。

本体4巻とは別に、補遺として目録を作成した。「鹿児島県の維管束植物分布図集・全県版(2022)」に基づき、(帰化種や逸出種を含む)屋久島から記録されている全ての種をリストアップした。目録+4巻をセットとして示すことで学術書としても位置づけられたと思う。

本書の上梓は、ゴールではなく、スタートであると考えている。本書は問題提起の書である。本書で為した示唆が、今後の屋久島産植物の様々な角度からの探求の基盤となることを願う。

2026年1月末日、ちらほらとスミレの花が咲きほころび始めた、屋久島宮之浦にて。

■ 推薦の言葉

久山 敦 (咲くやこの花館元館長・ナチュラリスト)

植物の宝庫屋久島にグローバルな視点から再度フォーカスを当て、更なる興味を与えてくれるパッション溢れる作品。

鈴木英治 (鹿児島大学名誉教授)

「問題提起の書」と著者自らが書いているように、種の分布や進化について長年の野外研究から著者の独自の見解を余すところなく披露している。

邑田 仁 (東京大学名誉教授 元・日本植物分類学会会長)

伝説の本がついにここまで来たかという感じです。屋久島が宝の山であるように、この本も宝の山でしょう。

横田昌嗣 (琉球大学名誉教授)

本書は、長く屋久島の植物を観察し続けてきた著者の努力の結晶で、屋久島の自然の貴重さの理解に貢献することを期待します。

古賀顕司 (屋久島公認ガイド・植物観察家)

「集大成」とは、まさにこの本のことだと思う。過去の屋久島の記録としても、重要な資料になることでしょう。

柴 嘉亮 (恵命堂代表取締役社長)

植物の特徴と魅力を引き出す素敵な写真が満載されていて、読者の皆様に喜んでいただけることと思います。

手塚賢至 (屋久島照葉樹林ネットワーク代表)

世界自然遺産の島の植物たちの不思議と神秘に触れたいと望むなら、この写真総覧は全てを満たしてくれることでしょう。

山下浩一郎 (南日本放送報道制作局次長)

膨大な写真に記録された草花たち、そのひとつひとつに刻まれた「命の連鎖と進化」の物語。屋久島の風景が違って見えてくる。

■本書各巻の主な内容

第I巻 キク科植物群 (上)

キク科植物群の前半、スイカズラ科からアカネ科までの381種・分類群と、島外産関連種。カンツワブキ、イッスンキンカ、ヒメキクタビラコ、ホソバハグマなど、屋久島を代表するキク科植物の重要種について、他地域の姉妹集団との関連を考察しつつ紹介する。



第II巻 キク科植物群 (下)

キク科植物群の後半、リンドウ科からアジサイ科までの97種・分類群と、島外産関連種。屋久島産ヘツカリンドウを他地域産との俯瞰的な視点からの比較を行い、独立分類群アズキヒメリンドウとして記載準備を整える。ヤクシマコンテリギの位置づけを、周辺諸島や中国大陸産近縁集団との関連で考察、アジサイ属全体の再編も行う。山上にピンクのカーペットを為すヤクシマシャクナゲ群落のフォト・ギャラリー。



第III巻 バラ科植物群

ムクロジ科からキンポウゲ科に至るバラ科植物群 453種・分類群と、島外産関連種。屋久島の低地帯を代表する夏緑広葉樹ヤクシマオナガカエデについて、奄美大島のシマウリカエデや台湾産近縁種などとの関連を考察しつつ、その魅力を掘り下げる。低地帯のリュウキュウイチゴと山地帯のヤクシマイチゴの興味深い関係を、周辺地域や日本本土・中国大陸などの近縁種との関連に基づき考察する。



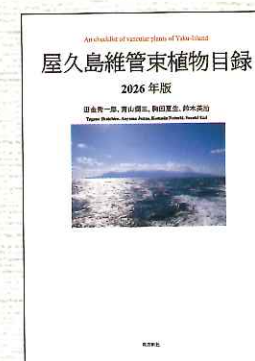
第IV巻 基幹被子植物+単子葉植物/針葉樹

イネ科からソテツ科に至る基幹被子植物+裸子植物 519種・分類群と、島外産関連種、およびシダ類389種の概要。これまでその実態がほとんど知られていなかった超希産種、マツゲカヤラン、ヒメクリソラン、タイワンショウキラン、ヤツシロラン類、ヤクノヒナホシ、ギンランの未記載分類群などを、鮮明で美しい写真とともに紹介する。



屋久島維管束植物目録 2026年版

2022年に纏められた「鹿児島県の維管束植物分布図集-全県版-」(鈴木ほか、2022)収録の鹿児島県産3917分類群中、屋久島産1844分類群をピックアップ、シノニム(重複名称で掲載された分類群)や明らかな誤記録などを削除整理し、2026年3月時点で新たに確認・発見された種(分類群)を加えた1805分類群(予定)をリストアップした。目録と本巻の間で種名などに異同がある場合は、その要旨を記した。



★ 台湾産オオヒメキクタビラコ *Myricicis humilis* (*M. longipedunculata*) 台湾粘冠草 II



顕花はヒメキクタビラコと類似、ほとんど区別がつかない(同様に白とピンクがある)。草丈はより高く、茎はしばしば分枝、葉は平滑(ヒメキクタビラコは多毛)、基本的にヒメキクタビラコと同じ咬れ込みパターンを持つが、その特徴が顕著に示され、先端の小葉が幅広く、中央が深く切れ込んで、半圓形に翼を為す形状を呈する(ヒメキクタビラコでも個体によっては先端の片が幅広くなる)。

台湾合歡山 2006.9.2~9.4

屋久島の標高 1600m 前後に稀産するヒメキクタビラコの唯一の近縁種、台湾産オオヒメキクタビラコ (P.36-P.41)

各地産ヘツカリンドウ種群の花被裂片の比較



ヘツカリンドウ(ヘツカリンドウ) / 1 段目 [1-3 大隅半島・4 奄美大島(徳島)・5 鹿之島・6 沖縄本島(鹿港)・7 間石川島・8 久保島]
Sweria tashiroi var. *tashiroi*
 ヘツカリンドウ(アマミケボノソウ) 奄美大島 / 2 段目
Sweria tashiroi var.
 ヘツカリンドウ(リュウキュウセンブリ) 沖縄本島北部 / 3 段目
Sweria tashiroi var. *karuwan*
 アズキヘメリンドウ(アズキヘメリンドウ) 屋久島 / 4 段目と 5 段目左 4 枚
Sweria sp. sp. 1
 アズキヘメリンドウ(エビチヤヘメリンドウ) 伊平屋島 / 5 段目右 4 枚と 6 段目左 2 枚
Sweria sp. sp. 2
 シンテンアケボノソウ(ムラサキヘメリンドウ) 中国南部 / 6 段目左から 1 枚目広葉葉・4 枚目福寿草
Sweria shintensis sp. *shintensis*
 シンテンアケボノソウ(シンテンアケボノソウ) 台湾北部 / 6 段目左から 5-6 枚目
Sweria shintensis sp.
 タイカンサンセンブリ 台湾南部 / 6 段目左から 7 枚目
Sweria changii
 シマアケボノソウ 八重山諸島 / 6 段目右側
Sweria makinoana

大隅半島南端から南西諸島、台湾、中国に分布するヘツカリンドウ種群の花被裂片の比較 (P.284-P.307)



黒味岳 1983.8.2

ツチノキ 霊峰黒岳/目山 2001.7.24



黒味岳 1984.8.14

(右 2 枚) ツチノキ 霊峰黒岳/目山 2001.7.24

唯一の近縁種(独立属 *Daphniphyllum* とした場合の同属種)ツチノキ *R. (D.) cupiellata* が、九州大崩山系(霊峰・大分県境付近の大崩山 1644m と鬼ノ目山 1491m)に分布。植物体全体の構成は顕著に異なるが、花序の様子などは非常に似ている。特殊な岩地帯の岩壁周辺の林床に稀産する。中国大陸に数多くの種を擁する広義のアオギリ属の種の中に同種の近縁種が含まれているのではないかと「Flora of China」を調べまでチェックしたが、見出すことが出来なかった。

※ こうやって同種を比べてみると、結構よく似ているようにも思える。

固有種シャクナンガンピ。花序の様子が非常に似る唯一の近縁種ツチノキが、九州大崩山系に分布。中国大陸にも近縁種は見いだせない (P.520-P.525)

ヤクシマキイチゴ 1110 森 / リュウキュウイチゴ 1104 里 【バラ目バラ科】

Rubus yakumontanus / *Rubus grayanus*



典型ヤクシマキイチゴ 小杉谷上部 2006.4.28

典型リュウキュウイチゴ 安房



【実】 ヤクシマキイチゴ 安房林道 2006.6.25

【実】 リュウキュウイチゴ 富之清 2006.5.18

ヤクシマキイチゴとリュウキュウイチゴの組み合わせは、数ある屋久島産植物の中でも、最高に興味深い、不思議に感じられたペアである。“2 つの全く異なる同一物”というパラドクスな存在。多様性の魅力の程。屋久島が屋久島である所以が、ここに凝縮している。そしてビジュアル的にも美しく、加えてその果実はこの上もなく美味しい。なので、その知名度の高さは、いかになものか、著者は 2001 年に上梓した「世界遺産の森屋久島～大和と琉球と大島の狭間で」に於いて、かなりの頁を割き、この 2 種に関する不思議の問題提起を行った。しかし、無視されはままだに垂っている。未だに「カワイチゴとナガバノミミジイチゴの雑種」といった、安易なまりない(深く考察すれば有り得もしい)解釈が、教科書的に記され、まともに取り上げられることもなく、ほったらかしにされている有様である。その気になければ、様々な角度から掘り起こすことが出来る、無限のテーマが潜んでいる。例えば、安房林道の出発点から終点まで、徹底チェックしてみよう。興味深々の結果が示されるはずだ。世界(日本本土・南西諸島・台湾・中国大陸)のモミジイチゴ類の実態を徹底探索してみよう。予期せぬ実態が展開していくかも知れない。でも誰も行わない。そこで改めて問題提起を行ってみた。この雑文を踏み台にして、誰か本気で取り組んでみよう、という人が現れたら、こんなに嬉しいことはない。

屋久島産植物の中で最高に興味深い、謎に満ちたヤクシマキイチゴとリュウキュウイチゴ (P.542-P.563)

本種の種として扱えば、屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄本島(北部)、石垣島、西表島に分布。通常、前4番産をヤクスマスミレ、後2番産をヤクスマスミレ *subsp.* とし、後者をヤクスマスミレ(品種)イオモスミレを含む。イオモスミレ var. *ovata* の2変種に台付の DNA 解析では、それとは異なる組み合わせが示されている。屋久島、奄美大島、徳之島と、沖縄本島に大別でき、後者はイオモスミレを介してヤクスマスミレに繋がるとされる。島の形状からも、その妥当性は高い(知れよう、いずれにせよ)と見做して扱えれば両西諸島の固有種であり、多くの興味深い問題を内包しているものと思われる。屋久島で産するヒメヤマスミレとは直接的関係はなさそうで、奄美大島のヤマスミレも別群の可能性大。台湾や中国大陸に於ける関連種の発見が待たれる。ベトナム・ファンシーパン山中産産地で撮影した前頁下左の個体は、花がヤクスマスミレに類似。葉はより大だが、ヤクスマスミレに近なるようにも見える。



1: 屋久島 1932.1.14 [内藤] KAG158705 / 2: 房-徳之島歩道(600m) 1952.11.5 [田] KAG158707 / 3: 同-寛川(700m) 1968.6.18 [初島] KAG158706 / 4: 同-寛川(600m) 1965.8.4 [平田] KAG158712 / 5: 同-水田川(800m) 1969.6.30 [初島] KAG158711 / 6-7: 奄美大島津島産 2020.10.26 [田金・市原] KAG151512 / 8: 同 / 9: 同(500m) 1955.8.25 [初島] KAG158713 / 10: 同(650m) 1948.3.21 [初島] KAG158714 / 11: 徳之島赤川川口 2003.5.6 [廣川] KAG176643 / 12: 同(500m) 1955.8.19 [初島] KAG158715 / 13: 同(450m) KAG158716 / 14: 沖縄本島糸原郡産(200m) 1955.8.24 [初島] KAG158719 / 15: 同-豊久川(160m) 2023.1.25 [田金] KAG182211 / 16: 西表島(100m) 1958.11.8 [初島] KAG179149 / 17: 同 1940.1.10 [内藤] KAG179146 / 18: 同(100m) 1955.8.18 [初島] KAG179147 / 19: 同 1970.4.21 [中島] KAG179151 / 20: 同-浦内川 1968.4.21 [中島] KAG179150

657

ヤクスマスミレ。屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄本島に分布。八重山諸島産のイシガキスミレやヤヤマスミレも近縁。各産地の鹿児島大学総合研究博物館 (KAG) 標本 (P.654-P.657)

クロシマヤツシロラン... / タブカワヤツシロラン 529 属 【アスハラガス目ラン科】
Gastrodia kuroshimensis / *Gastrodia uraiensis*



クロシマヤツシロラン 屋久島(産地)2018.6.1 [市原] タブカワヤツシロラン 屋久島(産地)2018.4.17 [市原]

主に熱帯アジアに繁栄する菌楽従属植物、セッコク亜科オニノヤガラ族 *Gastrodia* オニノヤガラ亜属 *Gastrodiinae* は、オニノヤガラ属 *Gastrodia* とヒメヤツシロラン属 *Didymoplexis* (旧ニウレイトラン属 *Didymoplexiella* を含む) からなり、前者のうち丈が高く伸長し多数の花をつけるオニノヤガラ *G. elata* が最も北方まで進出(周日本海地域、ヒマラヤ東部および台湾)、一方 *Codonanthus* 属に所属する大多数の種(ヤツシロラン類)は、地上低く生え地味で目立たない花が1-数花咲く。アジア熱帯を中心に 100 種近く、日本にも 10 種余、近年になって新種や新産地が、南西諸島、ことば琉球から相次いで報告されている。隔離分布を為す種も多く、実際に複雑な分布様式を示すものと思われるが、調査が行き届いていない可能性もあり、今後さらなる実態が明らかになっていくものと思われる。(北琉球に隔離が強い種)
 <<北琉球に隔離が強い種>>
 トカヤツシロラン *G. fontinalis* 鹿島、竹島、硫黄島、四野の類島、台湾/タビヤツシロラン *G. jankowskianalis* 竹島、硫黄島、黒島、中之島、種子島、鹿児島県本土(一部地域)、五島列島種子島、屋久島(突嶽)シラネヤツシロラン var. *shiratsuanensis* / ノコギリヤツシロラン *G. fentanyloides* 竹島、大隅半島 / クロシマヤツシロラン *G. kuroshimensis* 黒島、竹島、悪石島、屋久島 / タブカワヤツシロラン *G. uraiensis* 屋久島、台湾 / ヤクスマヤツシロラン *G. albida* 口永良部島、屋久島、台湾。
 <<その他ほか>>
 クロヤツシロラン *G. pubilabiosa* 本州-九州 / ハルガヤツシロラン *G. nipponica* 527, 肥後半島-台湾 / アキザキヤツシロラン *G. caudata* 530 本州西部-屋久島、沖縄本島? 小笠原? / ユギヤツシロラン *G. fucida* 徳島、石垣島、屋久島、石垣島、西表島 / ヤブヤツシロラン *G. nipponica* 沖縄本島 / アマヤツシロラン *G. amomium* 奄美大島-徳之島 / ツツヤツシロラン *G. obtusirostrata* 沖縄本島 / ナンゴヤツシロラン *G. shimizuana* 奄美大島、沖縄本島、西表島、台湾 / オオハラヤツシロラン(未記載) 石垣島、与那国島 / ナヨマンテマ *G. gracilis* 本州南部-種子島、台湾 / ツボミヤツシロラン *G. clausa* 沖縄本島、台湾、小笠原? / ムニンヤツシロラン *G. boninensis* 小笠原 / コシヤガラ *G. javanica* 石垣島、西表島、台湾、熱帯アジア。

776

近年新種や新産地が北琉球各地から報告されているヤツシロラン類 (P.776-P.777)

ギンラン[ヒロハコウシュンラン] *** 高 【アスハラガス目ラン科】
Cephalanthera erecta (*Cephalanthera subaphylla*, *Cephalanthera* sp.)



徳川小屋-花之江河 1995.6.1 (ラン科植物の例外として本種の形態特徴をピンポイントで示した)



徳川小屋-花之江河 1995.6.1 同・左 中国陕西省紫河 2010.4.24 白山山 1991.5.29

ヤクギキ林上部(標高 1550m 地点)の林床での撮影。これまで幾つかの書籍で発表してきたが、無標本をされたままギンランは屋久島には分布しないことになっている(北海道-九州、朝鮮半島、台湾、中国華北-長江流域-南-西-南-東部)。通常のギンラン(下右写真)に比べ著しく小型で、ギンランとはほぼ同所的に分布する同属別種(部分的な菌楽従属植物、ギンランの変種とする見解もある)コウシュンラン *C. subaphylla* に相当する可能性もあるが、距は突き出さず、葉が幅広いことなどの相違がある。独立分類群を新設すべきかも知れない(その場合の仮名を示しておく)。

781

屋久島には分布しないことになっているギンラン。通常のギンランより著しく小型 (P.781)

マツゲカヤラン 523 属 【アスハラガス目ラン科】
Gastrochilus ciliaris



屋久島 2006.10.17 [田金] (3枚とも)

着生蘭の超希少種。1936 年に屋久島産を基に記載が為されて以降、ごく僅かの個体しか発見されていない。生態写真もほとんど世に紹介されなかった。最近になって、屋久島と台湾で野生個体が見つかり、優在女ことが確認された。同属種のマツラン *G. matsuran* 524 (本州-九州)、カシノオラン *G. japonicus* 525 (本州南部-八重山諸島)も屋久島から記録されている。セッコク亜科バンダ達 *Vandace* バンダ亜属 *Acerine*。

788

着生蘭の超希少種。1936 年の記載以降、発見個体もごくわずか。生態写真もほとんど紹介されていないマツゲカヤラン (P.788-P.789)

■ 編著者紹介



青山潤三 (あおやま・じゅんぞう)

1948年、神戸市生まれ。「ギフチョウ」『科学のアルバム』（あかね書房、1987）『小笠原～緑の島の進化論』（白水社、1998）『中国のチョウ～海の向こうの兄弟たち』（東海大学出版会、1998）『世界遺産の森・屋久島～大和と琉球と大陸の狭間で』（平凡社新書、2001）『屋久島～樹と水と岩の島を歩く』（岩波ジュニア新書2008）『中国蝶類図鑑』（南方新社、2025）ほか、著書多数

予約特価 注文受付中！！ (2026年6月末日まで)

屋久島維管束植物総覧

第Ⅰ巻 キク科植物群 (上)

編著者 青山潤三
協力 田金秀一郎
仕様 A5判、240頁、オールカラー
定価 本体5,800円+税
発行 2026年7月(予定)

第Ⅱ巻 キク科植物群 (下)

編著者 青山潤三
協力 田金秀一郎
仕様 A5判、240頁、オールカラー
定価 本体5,800円+税
発行 2026年7月(予定)

第Ⅲ巻 バラ科植物群

編著者 青山潤三
協力 田金秀一郎
仕様 A5判、240頁、オールカラー
定価 本体5,800円+税
発行 2026年7月(予定)

第Ⅳ巻 基幹被子植物+単子葉植物 / 針葉樹

編著者 青山潤三
協力 田金秀一郎
仕様 A5判、240頁、オールカラー
定価 本体5,800円+税
発行 2026年7月(予定)

屋久島維管束植物目録 2026年版

著者 田金秀一郎、青山潤三、
駒田夏生、鈴木英治
仕様 A5判、100頁
定価 本体2,800円+税
発行 2026年7月(予定)

郵便はがき

892-8790

168

図書出版

南方
新社
行

鹿児島市下田町二九二一

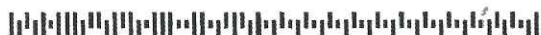
料金受取人払郵便

鹿児島東局
承認

100

差出有効期間
2028年1月
19日まで

有効期限が
切れましたら
切手を貼って
お出し下さい



ご注文

屋久島維管束植物総覧

(全4巻+目録セット) 予約特価 本体20,800円+税

セット

お名前

ご住所 〒

TEL ()

取扱書店
帳合

地小版 流通センター
取扱品

全巻セット

26,000円+税のところ

2026年
6月末日
まで

予約特価

20,800円+税

*送料無料

*ご注文は、左の注文はがきを書店にお持ちいただくか、
直接南方新社へお出しください。